

働き方改革実現会議 第 9 回

働き方改革の骨子について

(株)日本総合研究所
理事長 高橋 進

- 骨子では、当会議の当初に掲げられた 9 つのテーマがカバーされ、とりわけ非正規労働者の処遇改善と長時間労働の是正が盛り込まれたことを高く評価する。長年にわたって日本の大きな課題とされながら、先送りされ続けてきた労働市場改革を大きく前進させるものである。
- 今回の働き方改革は、「非正規」という言葉を日本から一掃することを目指すだけでなく、アベノミクスの下で目指してきた中間所得層の復活や低所得層の底上げにつながるものであり、欧米諸国で課題となっている分配政策強化の一つの方向を示すものである。
- さらに、改革は成長戦略の柱である生産性向上にも資する内容であり、経営側には生産性の向上を実現すべく、賃金体系の改革などを進め、その果実を労働者に還元する努力を求めたい。
- 同一労働同一賃金の対象に派遣労働者も含めることは、すべての労働者の処遇の改善を図る観点から重要なことであり、実効性のある具体化を求める。
- 長時間労働の上限規制について、労使の合意が得られたことは、今後、働き方改革を実現するうえで、大きな意義がある。合意の内容も、悪しき慣行を断ち切る一方で、現実に機能する実効性を期待できるバランスの取れたものとなっている。なお、適用除外分野についても、着実に上限規制の枠内に収めていくべき。
- 外国人材の受け入れについて、高度人材の受け入れを促進するだけでなく、将来的に非高度、非専門的な人材の受け入れる素地を作るという観点からも、受け入れ環境の整備を急ぐべき。体制整備の工程表を作るべき。
- 今回の骨子を月末までに具体化し、できるだけ早期に法改正を実現することを求める。